

平成25年度入学式式辞

宮崎市長戸敷正様、御来賓の皆様、御出席の皆様とともに、本日ここに、平成25年度宮崎公立大学入学式を開催できますことに、心から感謝を申し上げます。選抜された219名の新入生の皆様、ご入学、誠にめでとうございます。保護者の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

ここ宮崎公立大学は、本年、創立20周年を迎えます。本学は「広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学として生涯学習の振興、産業経済の発展および文化の向上に貢献する」という壮大な理念の下に、1993年に建学されました。グローバル化がますます進む時代を予見して、マスプロ教育ではなく、少数精鋭主義に基づいて、人文学部国際文化学科という語学と教養教育を重視する若々しい大学です。日本では、数少ないリベラルアーツ教育を行っている大学のひとつです。リベラルアーツの意味が分からないというご意見をよく聞きますが、文字通り翻訳いたしますと、「人間を自由にする技術」という意味です。多くのことを学べば、人間はより自由になれるということです。それが、リベラルアーツの本質です。本学の目標は、英語をはじめとする外国語の優れたコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな知識を身につけた、地域社会と国際社会に貢献できる意欲とリーダーシップのある人材を養成することにあります。

現在、文化的摩擦や文明の衝突、さらには宗教をめぐる問題が世界各地で対立や紛争を引き起しています。また、リーマンショックやEUの経済危機に象徴されるように、経済危機は、今日では、直ちに国境を越えて世界経済に大きな影響を及ぼします。また、グローバル経済は、貧富の格差、富める者と貧しい者、富める国と貧しい国の格差を拡大しており、これがあらたな国際的な紛争の火種となっていることは皆さんご存知のとおりです。このように激しくゆれ動く世界の中で、日本のこれからの進路を見据えて、こうした問題に対処するための方法論を大学で是非探究していただきたいと思います。そのためにも、人文科学のみならず、自然科学および社会科学を広く学んで、教養を深め、国際化時代にふさわしいマナーを身につけていただきたいと願っています。

グローバル化に対応するために、本学はICT教育にも力を入れています。ICTは、Information and Communication Technology、つまり、情報通信技術の意味です。インターネットの発達と普及は、人間が簡単に国境を越えることを可能にしました。部屋の中から世界とコンピュータでつながり、また、外国からもすぐ返事が返ってくる、そういう時代になりました。従いまして、現代生活にかかせないICT技術について、既にマスターされている方もいらっしゃるかもしれませんが、大学でプログラムをたくさん用意してい

ますので、さらに深く学んでいただきたいと思います。これも大学で学べる貴重な技術、アートです。このような時代にこそ国際共通語ともいべき英語を修得することが、前にも増して必要になっています。コンピュータ言語は、英語が国際スタンダードになっています。

大学では、英語をはじめとする外国語を修得するとともに、私の意見ですが、是非日本語をあらためて勉強することも目標にしていきたいと思います。日本語を母国語とする者にとって、あらゆる語学の基礎は日本語です。外国語を学べば、日本語もさらに上達します。これは私の翻訳者としての経験から言えることです。外国語を日本語に翻訳してみることも外国語と日本語の良い勉強になります。語学修得のためには、ある程度の期間徹底的に集中して努力することが必要です。自分の庭を深く耕して、英語であれば英語修得の根が地下の水脈に届けば、木は根付き、やがて葉を茂らせ、大きな樹となります。しかし、浅くしか耕さないで、途中で努力を放棄してしまうと根が水脈まで届きません。根付かずに枯れてしまいます。私も英語を教えたことがあります。途中で努力をやめて、またゼロから始めることを繰り返す人が結構多いように思います。

外国語をマスターするためには、少なくとも3年間はできるだけ沢山の文章を読んで、徹底的に辞書を引いてボキャブラリーを増やし、耳からも聞きながら正しい発音を身につける、そして、できるだけネイティブの人と話す機会を持ち、最終的には文章を書き得ることが必要です。これが外国語をマスターするコツです。しかし、語学のみならず文学、歴史、法律、経済、国際関係等について広く学ばないと英語をしゃべることはできても、内容のない会話しかできません。これでは国際社会では尊敬されません。学生時代こそ自分を鍛えるために、十分に勉強できる、深く耕すことができる時間を持つときです。恵まれた人生の時期です。学生時代という人生の貴重な時間をどのように過ごすかが、その後の皆さんの人生を決めると言っても過言ではありません。

今年の1月、私はアメリカのマサチューセッツ州ケンブリッジにあるハーバード大学に調査のために行き、教授たちにインタビューをする機会がありました。ハーバード大学は言うまでもありませんが、世界でもっとも有名な総合大学の一つです。ハーバード大学も、今ではあのように大きくなっていますが、もとはといえば、リベラルアーツのための小さな大学として1636年に創立されたのです。アメリカで最も古い高等教育機関です。

このように世界中に大学は色々ありますが、百聞は一見にしかず、と言います。英語では、"Seeing is believing." 見ることは信じること、実に明快です。皆さんにも海外の大学を訪れ、授業に参加したり、歴史のある建物を見たり、学生たちや教授と交流する経験を持つことを、是非、本学在学中に経験していただきたいと思います。大学は、皆

さんの国際交流を応援するために、中国、韓国、カナダ、ニュージーランド等の大学との交換留学制度、異文化実習制度など様々なプログラムを用意しています。是非意欲を持って、チャレンジしていただきたいと思っています。すべてはチャレンジから始まります。

本日の入学式は、皆さんが充実した4年間を過ごされるための新たな出発の日です。1日も早く、新しい生活と環境に慣れて、この人生の大切な時間を、自分自身で自分という船の舵を取りながら、夢と目標に向かって進んでいただきたいと思っています。良き先生、良き仲間との新しい出会いが沢山あると思います。この新しい出会いを通じて、皆さんのキャンパスライフが、すばらしい豊かな人生の土台となることを心から期待して、ご入学のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

平成25年4月3日

宮崎公立大学

学長 林 弘子